

全国 ESD・SDGs 自治体会議に参加して

福岡県北九州市環境局 環境学習課長 埴谷 章子

2019年10月25日、26日の2日間、第2回全国 ESD・SDGs 自治体会議に参加させていただきました。自治体ごとにアプローチの異なる ESD、SDGs の取り組みについて情報共有することができ、また、大学や研究機関のご意見や実践事例を拝聴する貴重な学びの機会をいただき、主催の立教大学 ESD 研究所の皆さまや関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

会議に先立って中口毅博先生からご報告いただいた「ESD の効果測定のための ESD 地域創生指標の開発コンセプト」は、ESD がどのような地域創生効果をもたらしたかを指標化する内容だった。私は日頃から ESD や環境教育、生涯学習事業が地域づくりにどのような効果をもたらしているのか、企画部門や財政部門に客観的に説明できず苦勞しており、とても興味深く聞かせていただいた。

ご参加の自治体から活動事例をお聞きしながら考えたことがある。

ご承知のとおり、ESD、SDGs に関しては自治体ごとにさまざまな取り組みが行われている。それは当然のことながら、自治体の規模や歴史・地理的背景、産業や交通面での特性など、地域性が大きく影響している。教育委員会主体か首長部局主体かの違いも大きいと感じた。自分の自治体がどのような事業に取り組み、どの分野の支援を強化するかという基本的な方向性や、個々の取り組みをどう評価するか、自治体独自のローカルアクションプラン策定と指標による評価が重要である。そしてそれは、人材育成、教育分野も同様だと思う。

SDGs の推進に向けた地方公共団体の取り組みについては 13%にとどまる（注）というが、国内外での SDGs の急速な広まりや ESG 投資の進展を受け、今後は多くの自治体で SDGs アクションプログラムやローカル指標の策定が進み、「人づくり」事業にも重点が置かれるのではと感じている。

その点において、全国 ESD・SDGs 自治体会議が ESD の推進、SDGs 教育の推進を目指して地域創生の評価やアクションプランづくり等を検討するうえで、参加自治体が拡大しより多様な事例が共有されることが求められる。

全国 ESD・SDGs 自治体会議が、自治体に共通する ESD、SDGs 推進の課題を本音で話し合い、解決の糸口を得ることができる貴重な機会になることを期待している。

（注）第2期「まち・ひと・しごと創成総合戦略」